

初任１年次の教員に対するメンター方式研修の実施

北海道今金高等養護学校

■ はじめに

北海道教育委員会では、初任段階層を対象とした学校計画研修において、メンター方式を積極的に取り入れるよう求めています。平成 29 年 3 月発行の『教員の学びへのサポート』という冊子にも、詳しく掲載されています。これらを受けて、本校では平成 30 年度に「授業者支援会議」という方法を用いて、初任 1 年次の教員の授業研究をサポートしました。その成果と課題も踏まえ、令和 2 年度から「メンター方式研修」を行うこととしました。

複数の先輩教員が助言者・支援者となり、OJT によって若手教員を育成し、知識・技能の伝承を図ることを目的として計画しました。また、経験は違えども同僚としての立場を意識しつつ、穏やかであり活発な話し合いが広がるよう、KJ 法を用いて実施しました。授業づくりや日常の指導などで抱いた素朴な疑問や悩みに対して、経験談を伝えたり、一緒に考えたりする会となるようにしました。

■ メンター（先輩教員、助言者・支援者）の依頼

本研修の担当者と相談した後、最終的にメンティ（若手教員＝初任 1 年次の教員）自身に選出してもらいました。そして 2 人をお願いに伺い、了承を得ました。

選出の際は、経験年数、経験業務、専門教科（分野）、所属（学年、学科、分掌）を考慮しました。特に、ベテラン層、中堅層、初任段階層がそろうように調整しました。なおかつ、メンティが受け持つ授業やホームルームと関わりがある方に依頼しました。

メンターチーム	
メンティ	メンター
●●科●年 副担任 研究授業：生単	管理職：教頭 指導教諭：〇〇、〇〇 中堅以上の教諭：〇〇（ベテラン層、同じ学科、作業学習の観点から） 初任段階の教諭：〇〇（初任 5 年次、学年は異なるが生単担当、学級運営の観点から） 同じ授業等担当：〇〇（中堅層、同じ HR に所属、同学年生単担当の観点から）

■ 研修会の様子

【第 1 回】

メンティには、普段困っていること、相談したいことを「オーダー」として 4 つ程度挙げてもらい、それについて話し合いました。事前にメンターにオーダーを伝え、付箋にアイデアを書いてもらい、KJ 法で進めました。今日の話をもとに日々実践し、研究授業の準備を進めてもらいました。



第 1 回の様子（付箋に書いたことを基に話し合っている）

【第2回】

第1回を経て、その後どうかという話を交えつつ、研究授業の指導案検討を行いました。指導案は大筋の流れがわかる程度の“たたき台”を用意してもらいました。そして、前回と同じでも違って良いのでオーダーを挙げてもらい、話し合いをしました。この会から、研究授業のST（ペアの単元担当）にもメンターとして参加してもらい、今日の話をつまえて協働して指導案を詰めてもらうことにしました。

また、当初計画にはありませんでしたが、メンターの授業を参観したい・してもらいたいという要望により、メンターの授業を参観する機会を設けました。別のメンターがMTやSTの動き、題材や教材の工夫点など細かく解説しました。

【第3回】

指導案の本格的な検討を行いました。オーダーは出さず、指導案で気になった点や工夫のアイデアをたくさん出し合うようにしました。これを踏まえて最終的な指導案をまとめてもらうこととしました。



第2回終了後の様子（メンティが整理した模造紙を見て、メンターも自身の実践を振り返っている）



第3回の様子（左の前の模造紙＝協議内容を見ながら、右の模造紙に付箋を貼り、協議している）

■ 研究授業

メンターは、時間いっぱいではなくても必ず参観するようにしました。メンター以外の先生方も多数参観していただきました。全員に参観者アンケートを配布し、当日中に授業者へ渡すよう依頼しました。メンターにはこれに加えて付箋を配布し、良かった点、そうではなかった点、改善点や助言の3種類を書いて、協議会に備えてもらいました。



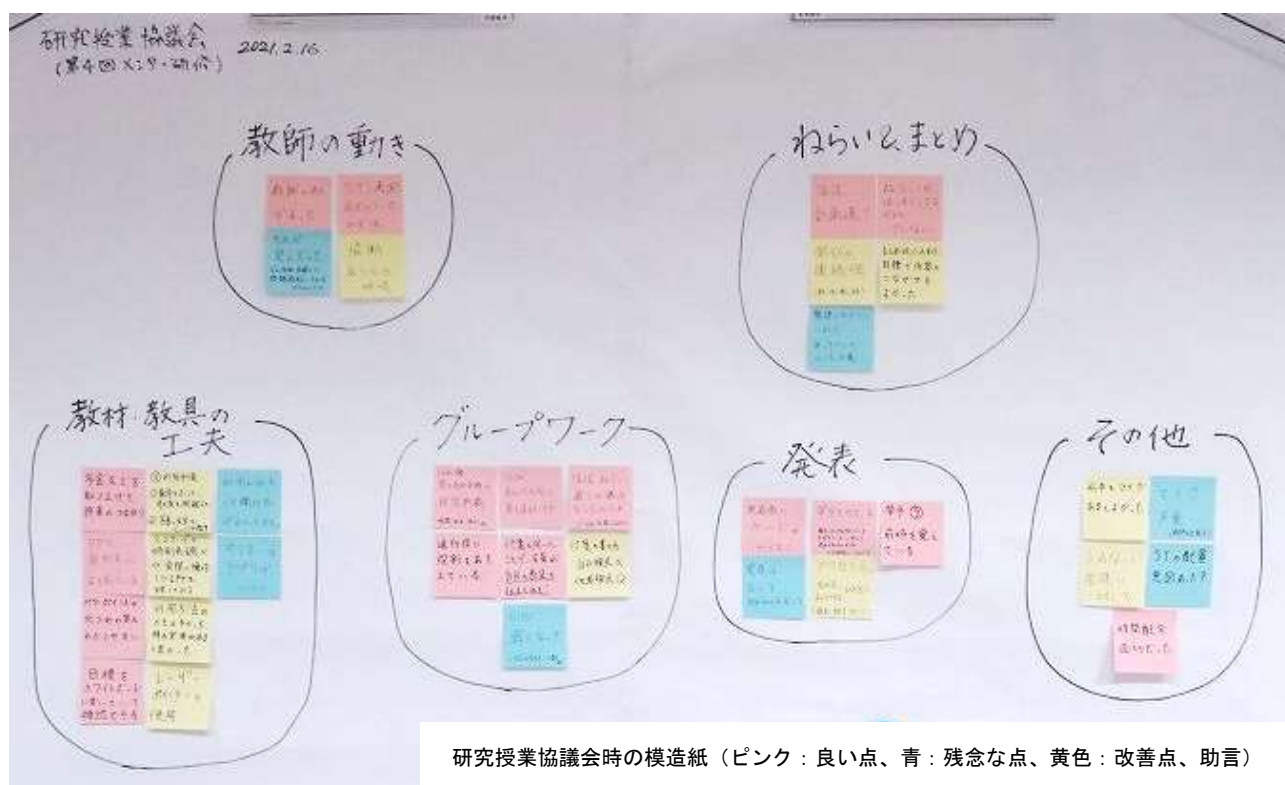
研究授業の様子

■ 研究授業協議会

メンター研修の拡大版（第4回メンター研修会）と位置付けて、研究授業協議会（いわゆる合評会、反省会）を行いました。管理職、ST、メンターは必ず出席し、それ以外の参観者の出席もありました。MTから授業・生徒の評価を伝えてもらった後、話し合いを行いました。メンターには事前に準備してもらった3種類の付箋を模造紙に貼ってもらい、その内容を軸に話をしてもらいました。



研究授業協議会（第4回メンター研修会）の様子



研究授業協議会時の模造紙（ピンク：良い点、青：残念な点、黄色：改善点、助言）

■ 事後実践・振り返りレポート

成果と課題を踏まえて、事後実践（研究授業ではないが指定された様式で略案を作成、授業後に振り返りレポートを作成、メンターに配布し必要なら第5回を開催）を行ってもらおうよう計画しました。しかし、研究授業後すぐに担当単元が終了となり、実施できませんでした。

■ おわりに

研修会を行うことによって、メンティ・メンター双方が刺激を受け、授業・指導を振り返り、改善を目指すことができました。また、メンティの研究授業や日常の指導にあたる様子を見ると、知識・技術の伝承を図るという大きな目的は、おおむね達成できたと考えています。

すべての取り組みを終えて、メンターとメンティから意見をいただきました。

メンティ	・ 様々な経験やアイデア、アドバイスをいただき、とても勉強になった。 ・ 定期的に研修会があったため、相談しながら研究授業の準備を進めることができた。 ・ 授業参観も他学年を見る良い機会だった。参観時、メンターに解説していただいたことで、授業者の言動の意図に気付くことができた。
メンター	・ KJ法を取り入れることで、うまく知識・技能を伝えることができた。 ・ バランスのとれた構成（年齢、所属等）だったが、男女構成も考慮すると良い。 ・ 研究授業のSTも最初からチームに入っていると良い。 ・ もう少し小規模で、（初任者に限らず）いろいろな先生ができるとおもしろい。

以上を踏まえて、次のメンター研修へつないでいきます。